

令和3年度一関保健所運営協議会議事録

◇ 日時

令和3年7月20日（火）18：30～20：00

◇ 場所

一関市山目字前田13番地1
一関保健センター1階 多目的ホール

◇ 出席者

委員18名のうち16名出席

（出席委員）勝部 修 委員、青木 幸保 委員、寺崎 公二 委員、金沢 純一 委員、小笠原 慈夫 委員、
船山 陽子 委員、小山 晃 委員、横山 恵 委員、佐藤 耕一郎 委員、佐藤 元美 委員、
鈴木 由美 委員、畠山 文子 委員、千葉 京子 委員、佐々木 裕子 委員、長澤 茂 委員、
千葉 小香枝 委員

（欠席委員）古里 正博 委員、神崎 浩之 委員

◇ 会議内容

1 開会（佐々木次長）

会議成立報告：委員18名中16名の出席

2 挨拶（仲本所長）

3 出席者紹介（佐々木次長）

別添出席者名簿により紹介

4 会長・副会長の選出

委員から自薦・他薦がなかったため、事務局案として会長に一関市長 勝部 修 委員、副会長に一関市医師
会長 寺崎 公二 委員を提案し了承された。

5 議事

○勝部 修 会長（一関市長）

それでは、次第に従いまして早速始めさせていただきますが、次第5（1）「令和2年度 一関保健所事業
の実施状況及び令和3年度重点取組事項について」と（2）「新型コロナウイルス感染症に係る発生状況につ
いて」をまとめて事務局から説明をお願いします。

（資料1-1、資料1-2、資料2-1、資料2-2、資料3-1、資料3-2、資料4について事務局か
ら説明）

○勝部 修 会長（一関市長）

説明が終わりました。議事（1）の部分と（2）の部分でございます。説明の量が結構多いのですけれど
もここで御意見や御質問を受けたいと思いますが、どこの部分かを特定するために資料ナンバーを明らかに
して質問をしていただければと思います。どなたかございませんか。

○長澤 茂 委員（一般社団法人岩手県介護老人保健施設協会長）

資料1-1の2ページ目（2）地域医療アの両磐保健医療圏の地域医療を守る懇談会の主な議題で、「地域医療構想実現に向けた取組状況について」とありますが、以前、病床の削減ということが話題となりました。それが今、新型コロナでうやむやになったことで逆の話題提供に結びついたように見ておられて、そのあたり、藤沢病院についての考えも変わったのかと思いますので、お聞かせ願います。

それからもう一つ、医療と介護の整合性の確保については、今、我々医療職は医療と介護とが一体でみていく「病院完結」から「地域完結」へという時期を迎えていると思います。高齢者がたくさん増え、生活の場で支えながら治るものであれば寄り添って治していこうという時代になったと思いますので、「追加的需要」というものについて教えていただきたいと思います。

それから、障がい者福祉についてですが、県で障がい者の就労を応援しましょうと予算立てをして、就労支援A、B型事業所等に支援していますが、両磐では、どの位集まっているのか教えていただきたいです。

<佐藤管理福祉課長>

地域医療を守る懇談会については、昨年度は書面開催とさせていただきましたが、主な議題の「地域医療構想の実現に向けた取組状況について」は、各病院に照会をさせていただきました。地域医療構想は病床機能の分化ということを目的として掲げており、毎年、病床数の確認をさせていただいております。新型コロナの関係で、今後の病床数の計画も変わってくるのではないかなという議論もございますけれども、国の方でも検討中とのことでございまして、新たな照会や見直し等のための作業が来年度以降あるかと思えます。また、次期医療計画に反映していこうとするものでもあり、これからの議論になってくるものと認識しております。

医療と介護の整合性の確保については、追加的需要の対応方針について、書面で委員の皆様を確認をいただいたのですが、第7次医療計画及び第8期介護保険事業計画さらに地域医療構想の病床機能も絡んでくるもので、療養病床から在宅医療や介護施設・サービスへの振替の整合性を持たせるための議論ということで、各圏域の特性や状況に応じて調整するよう本庁からの指示があったものです。

障がい者福祉については、障害者地域自立支援協議会がございまして、市や町、関係団体の皆様を構成員として協議会や部会を開催しています。その中にしごと部会というのがありまして、新型コロナの関係からなかなか難しいところもあると聞いておりますが、賃金向上をふくめ、一関地域で障がい者就労を推進していくための協議等を行っています。

○長澤 茂 委員（一般社団法人岩手県介護老人保健施設協会長）

ありがとうございます。

○勝部 修 会長（一関市長）

ほかにございませんか。どうぞ。

○佐藤 耕一郎 委員（県立磐井病院長）

資料2-1のところですけど、保健所が認識しているのは、脳卒中、糖尿病、精神病、コロナなどが主要な取組状況なのですが、我々は外科医なので、20代の頃から認識しているのは、大腸がんによる腸閉塞が非常に多いということです。腸閉塞は大腸の半分ががん置き換わらないとでてこないのだから進行してからとなります。その原因を前に調べた時に、水洗便所ではない地区の人が多いということです。ですから、以前、水道事業の方で下水の水洗化を進めてくださいという話をしたのですが、なかなか進まないみたいで、そうすると便潜血検査をもうちょっとやっていく必要があるのではないかなということを保健所の方にも認識していただきたいと思います。あと、痛くて内視鏡を入れられない方も多いのではないかなと思い、今後、当院ではCTで仮想内視鏡をする検査を導入するというので、この前2ヶ月位試してみても、非常に良かったので今後活用していくことにしたいです。保健所には、大腸がんによる腸閉塞がこの地区に多いことを

認識していただきたいです。

<高橋保健課長>

先生ありがとうございます。今後進めていく際に検討したいと思います。

○勝部 修 会長（一関市長）

ほかにございますでしょうか。どうぞ。

○佐々木 裕子 委員（一関市民生児童委員協議会副会長）

資料1-1の3ページ目（2）カの医療相談の内容で苦情が8件とありますけれども、どのような内容なのでしょう。

<佐藤管理福祉課長>

内容は様々ですが、相談者である患者と病院や診療所のお医者様とのコミュニケーションがうまくいかないことが原因のようなものが多数あります。苦情として、病院に指導してくださいという声をいただくこともあるのですが、お医者様とよく話し合ってくださいとアドバイスする等に対応することが多いです。

○勝部 修 会長（一関市長）

よろしいですか。ほか何かありませんか。どうぞ。

○寺崎 公二 副会長（一般社団法人一関市医師会長）

資料2-1の3ページの自死予防対策ですが、先ほど話がありましたが、岩手県は全国一自殺率が高いということで、県北地域の自殺率が非常に高く、両磐地区では東地区の方が少し高いという話を聞いています。その辺を踏まえて、事例を参考に自死対策をやっていただいて、一刻も早く不名誉な状況を早く解消するために積極的に取り組んでいただきたいと思いますので、今後どうぞよろしく願いいたします。

<高橋保健課長>

ありがとうございます。コロナ禍のなかでも自殺者も増えていますので、関係機関との連絡会をやりたいという話を課内でもしておりますので、先生方の御助言をいただきながら進めて参りたいと思います。よろしく願います。

○勝部 修 会長（一関市長）

はい、ありがとうございます。

○長澤 茂 委員（一般社団法人岩手県介護老人保健施設協会会長）

関連ですが、岩手県の10万対の自殺率が21.2。資料によりますとこの地域は結構高いですね。県内の状況としてはどうですか。

<高橋保健課長>

警察統計になりますけれど、現年度の人口動態の確定値からいきますと一関管内は30人ということで10万対24.6人で、昨年は、県内の9保健所のなかでワースト2位という状況になります。

○長澤 茂 委員（一般社団法人岩手県介護老人保健施設協会会長）

6月26日の岩手日報で本県が最も高い自殺率という記事がありましたが、この記事には「自死」という言葉が出ていなかったと思うのですが、自殺という文言の使い方に何かあるのですか。

<高橋保健課長>

自殺となると自分を殺すということになるので、事業で使うときは、自死という言葉を使わせてもらっています。統計的なものについては、決まりごとがございますので、統計で使うときは自殺率、自殺者数という決められた言葉で使わせていただいております。

一関につきましては、数年前に自死遺族のフォーラム等の取組をしてきた中で、この管内では自死という言葉を使っていきましようということで、市、町の計画についても自死という言葉で統一されています。

○長澤 茂 委員（一般社団法人岩手県介護老人保健施設協会長）

岩手県全体でということではないのですね。

<高橋保健課長>

そうです。県全体としてはまだ統一されていません。

○勝部 修 会長（一関市長）

はい、ほかにございませんか。どうぞ。

○金沢 純一 委員（一関歯科医師会長）

保健所もコロナ対策で忙しいのしょうけれど、2、3年前までは、健康づくりということで歯科医師会から我々が講師として出たりとか、また、講師を紹介したりとかで講演会等を開催し健康づくり事業を行っていました。なかなかコロナも落ち着かない状況ですが、今まで行ってきた事業がないという状況ですが、その辺はいかがでしょうか。

<高橋保健課長>

昨年度は人を集める事業をほとんど中止していましたが、今年度につきましてはご相談しながらやっていきたいと思っております。しかし、コロナの発生によって保健課職員がどうしても対応に当たらなければならない状況もあり、事業を計画しても中止せざるを得ないこともありますので、手探りの状況ですが、今後、少しずつ状況を見ながら先生方と取り組んで参りたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

○勝部 修 会長（一関市長）

はい、ほかにございませんか。

○長澤 茂 委員（一般社団法人岩手県介護老人保健施設協会長）

先ほど磐井病院の佐藤院長先生から大腸がんについての御指摘をいただきました。私、県の大腸がん精密検査の登録を受けていますので、そのことについて少し調べてみたいと思います。トイレの様式については前の会議でも先生から同じ御指摘を頂戴したかと思えます。

岩手県では生検受診率が全国に比べて高いので、水回りと受診率を組み合わせ調べてみたいと思いますので、先生どうぞご指導をよろしく申し上げます。

○勝部 修 会長（一関市長）

はい、ほかにございませんか。はい、どうぞ。

○佐々木 裕子 委員（一関市民生児童委員協議会副会長）

訪問活動をしている時に、在宅医療の「やまと」さんについて聞かれ、民児協で「やまと」さんのお話を聞いたりパンフレットをいただいたりしました。ただし、それをどのようにつなげたら良いかわからないままで、聞かれた方にどのように対応したらいいかと思っています。

<佐藤管理福祉課長>

「やまと」は、新しく開設された診療所とのことで保健所にも届出がありました。まず、パンフレット等の案内により、ご本人や家族に内容を知っていただくことからなると思います。実際に、その方の置かれている状況をふまえてご検討され、その診療所を利用するのがよいか、それとも他のサービスや方法がよいかということを経験的に判断していただくことが必要ですので、かかりつけ医があればその病院、また、介護に係る場合はそちらにもご相談しながらという利用の仕方になるかと思います。

○佐々木 裕子 委員（一関市民生児童委員協議会副会長）

連携とかそういうのは、特にこの「地域医療」のなかに入らないのですね。

<佐藤管理福祉課長>

特に「地域医療」の事業としてではありませんが、「やまと」の代表の方にお会いしたり、お話を聞いたことはあります。

○佐々木 裕子 委員（一関市民生児童委員協議会副会長）

（聞かれた方に）どう切り出したらいいか分からなくて。

<佐藤管理福祉課長>

医療についてのお困り事ということでしたら、医療相談の形でご相談いただくこともできるかと思います。

○寺崎 公二 副会長（一般社団法人一関市医師会長）

在宅医療専門のクリニックのやまとさんは、一関では普通の民家だったとこに開所して、ドクター2人で訪問診療を専門にやるという形で4月から始めています。基本的に在宅医療ですからドクターが行って患者さんを診るというのが前提ですから、いきなりポツとそこに患者さんが発生するわけではなく、すでにかかりつけのお医者さんがいらっしゃるはずで。そして介護ではなく医療ですから、かかりつけの先生から御紹介いただくということがスムーズな進め方なのかと思います。今は2人で24時間365日というのはマンパワーの意味では全部一遍に診られないので、必要に応じた形で少しずつ患者さんを増やしていくということがあります。結果的には医療でございますから、それを居宅でやるか、クリニックでやるか、施設でやるかの違いですので、医療費もかかりますし、コストもかかりますので、本当に在宅の医療が必要な人かをちゃんと見極めたうえでご相談いただくものだと思いますので、本当に必要であればかかりつけの先生とご相談していただくことが早道かと思われれます。

○勝部 修 会長（一関市長）

はい、どうぞ。

○佐藤 耕一郎 委員（県立磐井病院長）

新型コロナの濃厚接触者の検査について、環保研に出しますと、結果が出るのが次の日の夕方なので、対処が遅れてしまいます。うちで引き受けて、すぐに対処した方が、早めにクラスターを抑えられると思っています。このことは、県の会議で県立中央病院の院長からもお話いただいています。

また、先頃の奥州のバスケットの試合の際、観客に「この後、真っ直ぐに家に帰ってください。」というチラシを配ったようですが、効果があったのか疑問です。今後このような場合どうしたらいいのでしょうか。

<仲本保健所長>

バスケットの件について、飲食店には感染対策を万全すること、また、観客には飲みに行かないで家族と食事をというチラシを配らせていただきました。私自身、試合全部に参加し、会場でマスクをちゃんとして

いない人や鼻の頭が出ている人などに注意して回ったりしていました。なんとかなったかと思いつつ、その効果についてなかなか検証できていないです。

○勝部 修 会長（一関市長）

はい、それではそろそろ次に移ってもよろしいですか。

それでは、議事の（3）に移ります。「新型コロナウイルス感染症の今後の見通しについて」の説明をよろしくをお願いします。

（資料5について仲本所長から説明）

○勝部 修 会長（一関市長）

はい、ありがとうございます。

ただ今の説明について、御質問等ございましたらお願いします。

（特になし）

それでは、質問等ないようですので、予定していた内容は以上とさせていただきたいと思います。これまでの議事進行に御協力ありがとうございました。進行は事務局にお返しします。

6 その他

特になし